

2011年2月13日(日) 10:30-18:30  
公開・国際シンポジウム「死生と造形文化III」  
会場 東京大学本郷キャンパス 法文二号館一番大教室

# イメージとヴィジョン 東西比較の試み

## Images and Visions in Christian and Buddhist Culture

### “Death and Life” and Visual Culture III

#### 第1部 10:30-12:30

- 開会挨拶 島薗進(本G-COEプログラム初代リーダー)  
趣旨説明 秋山聰(本G-COEプログラム事業推進担当者)
- 基調講演 ハーバート・ケスラー Herbert Kessler(ジョンズ・ホプキンス大学)  
“Painting on a Cloud: Reading Medieval Images as Reality and as Vision”  
(「雲に描く 一中世のイメージを現実として、ヴィジョンとして読む—」)
- 発表I 佐藤弘夫(東北大学)  
「彼岸に誘う神 一日本の浄土信仰におけるイメージとヴィジョン—」

#### 第2部 13:15-16:45

- 発表II 井手誠之輔(九州大学)  
「礼拝像における視覚表象 一宋元仏画の場合—」
- 発表III ミケーレ・バッチ Michele Bacci(シエナ大学)  
“Sacred Narratives, Holy Objects and the Visionary Experience in Late Medieval Italy”  
(「中世後期イタリアにおける聖なる語り、聖なるモノと幻視体験」)
- 発表IV 増記隆介(文化庁)  
「和装羅刹女像の生成 一宋と日本への二つのヴィジョン—」
- 発表V 木俣元一(名古屋大学)  
「『顔と顔とを合わせて』 一聖顔・痕跡・ヴィジョン」
- 発表VI フアビオ・ランベッリ Fabio Rambelli(カリフォルニア大学サンタ・バーバラ校)  
“Visions of the Invisible: Images and Representations in the Buddhism Tradition”  
(「見えないもののヴィジョン 一仏教表象論をめぐって—」)

#### 第3部 ディスカッション 17:15-18:30

- 総合司会: 奥健夫(文化庁)／秋山聰  
使用言語: 日本語・英語  
同時通訳付き (先着順 同時通訳機には台数に限りがあります)  
With simultaneous interpretation (on a first-come-first-served basis)

一般公開・入場無料 Open to the public, Free admittance

主催: 東京大学グローバルCOEプログラム『死生学の展開と組織化』

協賛: 東京大学大学院人文社会系研究科美術史学研究室／科学研究費補助金基盤研究(B)『像(イメージ)の生動化についての比較美術史的研究』

Organized by the Global COE Program: Development and Systematization of Death and Life Studies

With support from the Department of Art History, Graduate School of Humanities and Sociology, The University of Tokyo and JSPS Grant-in-Aid for Scientific Research (B): Comparative Art Historical Studies on Animated Images

<http://www.l.u-tokyo.ac.jp/shiseigaku/>  
Tel. & fax: 03-5841-3736

